

# 白河地区保護司会

# 会報 しらかわ

責任者  
会長 金澤 映仁  
白河市天神町43  
TEL 0248-23-0575

編集者  
委員 会  
編報委 仁  
題澤 映  
金澤 映  
会報アドレス  
http://www.srkw.or.jp/~mimo/hogoshi/



**『汗かき地藏』—中島村指定文化財—**

高さ約170cmの座像の石仏で建武2年〔1335年(780年前)〕に建立。伝承によれば、古来事変の起こるとき、この石仏の五体から汗がふき出すといわれ、奥州汗かき地藏尊として江戸時代末期まで参詣人群れをなしたと伝えられている。

### 保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって

- 一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更正に尽くします。
- 一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の防止に努めます。
- 一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

平成六年五月制定

### 地域の地藏菩薩

白河地区保護司会  
会長 金澤 映仁

胎藏曼荼羅中の北方第二重即ち観音院の外側にある地藏院の主尊が地藏菩薩です。地藏菩薩は地の堅固不壊なるが如く、菩提心が堅固にして、能く萬物を住持し、又大地に種々の寶を蔵するが如く、菩提心に無量の善根を具足せる徳を地藏とし、功徳の寶を生ずる徳、教化にあたりて忍辱、精進する徳等を本誓としてい

ます。

一般には積尊の入滅後、弥勒佛の出生するまでの間、無佛の世界に住して六道の衆生を教化、救済する菩薩といわれています。子育地藏、六地藏、延命地藏、將軍地藏、中島村に伝承されている汗かき地藏等があります。

お地藏様には種々の信仰と云い伝えがります。

昔、年老いた夫婦が田植えの節になったので、荒くれかきを始めた。ところが突然馬が暴れだし、夫婦は困ってしまった。すると、どこからかともなく子供が現れ、鼻どりを手伝い始めた。馬はうそのように静かになり、仕事がかどった。子供に昼飯を食べさせようとしたが、どこにもすがたがみえず、ふと祠をのぞくと地藏尊に泥がついていた。老夫婦は、地藏様が手伝ったんだと思った。以後、鼻どり地藏と呼び信仰が続いている。

昔、飢饉が続いた。そんな折、夫に先立たれた妻は途方



に暮れ、赤子を背負って夫の後を追う、あの世へと考えた。そのとき慈悲深いまなざしの地藏様に気づき、夫の菩提を成すことを考え、お百度参りを始めた。そのかいあって赤子は健やかに、妻の心にも明るさが戻った。この妻子に安らぎを与えた地藏様を地元の人は延命地藏と呼んでいる。

白河地区の保護司の皆さんは、地域の安心、安全を願って、お地藏様のように、不幸にして罪を犯した人、共に地域の一人として、共に住みよい地域づくりを願って歩んでいます。

- ### 第30回県更生保護大会
- 去る十一月八日、福島市に於いて開催され、講演会や各種顕彰等の式典が行われました。
- 【受彰者】
- ▼法務大臣表彰  
大木 宏典
  - ▼更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰  
小 椋 栄一
  - ▼東北地方更生保護委員会委員長表彰  
潮 地 龍 勝  
鈴木 裕 一  
有 賀 壽 夫  
菊 池 千 代 子
  - ▼東北地方保護司連盟会長表彰  
加藤 芳 子  
鈴木 博 成  
池 川 利 衛  
緑 川 知 一  
池 嶋 紳 一  
須藤 俊 光
  - ▼内助功労者  
井上芳子 井上晃吉 保護司の妻
  - ▼福島保護観察所長表彰  
八 卷 正 男
  - ▼福島保護観察所長感謝状  
※民間協力者
  - 公益財団法人会田病院 理事長  
会 田 征 彦
  - 東西しらかわ農業協同組合中畑支店 支店長  
青 木 正 浩
  - 合資会社安藤製材所 無限責任社員  
安 藤 太 章
  - YAMAGATA JAPAN株式会社代表取締役社長  
岩 間 邦 久



- 合名会社大木代吉本店 代表社員  
大 木 代 吉
- 株式会社ホテルニュー日活 代表取締役  
大 竹 利 一
- 丸水運送株式会社 代表取締役  
北 晶 博
- 医療法人櫻仁会西白河病院 理事長  
鈴木 修 平
- 高田工業株式会社 代表取締役社長  
高 田 和 良
- 伸和建設株式会社 代表取締役  
橋 本 秀 也
- ▼福島県保護司連合会会長表彰  
小 松 捷 也  
富 重 恵 夫  
門 馬 智 子  
内 藤 直 方

### 【講演(要旨)】 甲子園への道

齋藤 智也氏

聖光学院高校に赴任し、同時に野球部長に就任し十二年経過したある日突然、「監督」に選任せ

上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 受彰者の言葉

受彰者代表 大木 宏典

大変光栄なる法務大臣表彰を受け恐縮しております。

思い出しますと二十一年間いろいろな人達を扱い思い出します。本当に正しく指導したのだろうかとか、今あの人はどうしているのだろうかとか、うまく社会に解けていないのだろうかとか考えこんでしまいます。私は比較的覚醒剤の人を預っておりますが再犯が多いのでよく心配しております。

矢吹町は昔から「やくざ」の多い町でございます。いろいろな組があり、そういう観点から覚醒剤が多いのだと思います。

亡くなった斎藤氏から突然保護司をやるように言われ町内にそんな悪いことをする人は少ないと思いきや受けたのですが、結構多く居るのだと思いましたが気がします。

今は保護司の皆さんとなかよく情報交換しながら楽しく行っております。

日々のミーティングでは、常に高い意識を持ち、然も継続出来る事、又、レギュラーは勿論のこと、ベンチに居る者、スタントで応援に廻っている部員全体が連帯感を持ち、一体となって事に当たり、そして最後の最後迄、試合終了の合図がある迄

られ「三年間で甲子園に出場できるチームを作るよう、否出場せよ」の至上命令が発せられた。云うのは簡単だが、言われる方は突然の事に戸惑いと不安、責任感など計り知れない程の重さを感じずには居られない。裏を返せばこの一年生が三年生の時迄に甲子園に連れて行かなければ、おまえは「クビ」だと云うことなのである。

三年間で甲子園に出場出来るチームを作るには、先ず何をどうすれば、その何は何なのか、考えれば考える程何も掴めなく、思いも過ぎらない。夜も眠れない。そんな日々を経過しているうち、ふと気付くと、いつも本屋に居る自分を見つけた。決まって安岡正篤先生とか、陽明学の本を手にするようになっていった。先ずは自分の心をしつかり据えることが原点にあることを悟り、信念・モットーとして不動心、一燈照隅(ひいては万燈照国へと)、下克上と定め、すべての事を受け入れられる広い心を養うことによって、人や物に感謝できる選手の育成を目指すこととした。

### 編集後記

未曾有の大震災から三年が経過しようとするなか、今年度の研修旅行は、被災地の一つである『南三陸』。未だに残る津波の爪痕に脅威を感じ胸のしめつけられる思いがしました。

●新たな六名の広報委員が編成され、第三号の会報を発行することができました。ご寄稿いただきました白河市長さんをはじめ、委員のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

〈広報委員会〉

### 新任保護司紹介

新任  
砂 塚 功  
平成25年12月1日

諦めることない姿勢を問われている。これは監督のみではいけない。部長もコーチも、マネージャーも、そして学校全体がそうであらなければならぬ。

昨年十月の県大会に於いて県内九十五連勝でストップしたことはやもすると天狗になったり、浮かれたり、おごり高ぶった心がなかったか反省するに良い葉を与えていただき、初心にかえり新たなスタートを切った。

〈氏家孝紀記〉



### ①メッセージ伝達

法務大臣より各市町村長へ

**2 第六十三回 社会を明るくする運動**

矢吹町(7月1日) 白河市(7月4日)

地区担当保護司と犯罪予防部会員 金澤会長より野崎町長へ 伊達観察所長より市長(教育長)へ 所長4年連続来白してくれる

泉崎村(7月1日) 中島村(7月1日) 西郷村(7月1日)

金澤会長より久保木村長へ 金澤会長より加藤村長へ 金澤会長より村長(副村長)へ 地区保護司も同席

### ②街頭啓発活動

白河地区(7月4日)

児童会の皆さん、七夕かざりをして参加者の皆さんとパチリ。三会場に分かれ実施する。

参加者のみなさん 矢吹町(7月1日) 光南高校生の協力を頂く。早朝7時には活動開始する。

光南高校生と町長 白河地区児童会の皆さんの作品 市役所前で参加者の皆さん

西郷村(7月26日) 各種団体より30名参加。村長も出席して激励する。

佐藤村長も出勤 活動中の保護司

◎白河地区の活動が報道される。東北地方保護司連盟の広報誌「みちのく」七月号に年間活動内容が掲載され東北地方の皆さんに報告しました。

〔犯罪予防部会〕

### ③他団体との連携事業

①青少年健全育成活動

- イ 第三十三回小学生将棋大会 (六月一日) 白寿園
- ロ 結城杯ソフトボール大会 (六月二十二日) 五箇小
- ハ 白河市青少年健全育成推進大会 (七月八日) 市民会館 市内各校の代表八名が発表する。

②薬物乱用防止活動

- イ 街頭キャンペーン (六月二十九日) メガステージ店頭 高校生が「ダメ、ゼッタイ」宣言をする。
- ロ スクールキャラバン訪問 (十一月五日～十二日まで) 管内の羽太小、川谷小、関辺小、泉崎小、信夫二小、大屋小、小野田小、矢吹小を巡回訪問しました。

対戦する小学生 会場入りする中学生 優勝者の皆さん

### 安心して暮らせる社会をつくるために

白河市長 鈴木和夫

白河地区保護司会の皆様には、日頃より犯罪や非行をした人の立ち直りを支える更生保護事業に献身的に取り組み、謝り上げます。

「罪はもちろん憎むべきだが、非常にかわいそうな子供時代を送った者がほとんど。こういう生き方しかできないか？ ったのではないかと感じさせる面もあった。」と谷垣法務大臣の談話が報道されましたが、罪を犯した人は概して環境に恵まれなかったことがその大きな要因とも考えられています。

現代は、個人の自由や権利が尊重され、他人に対する思いやりの気持ちが弱い人間関係が希薄な社会といわれています。一方、東日本大震災の救援活動の際には、地域コミュニティの力が随所に発揮され、改めて私たちに人と人とのつながりの大切さを教えてくれました。市では、こうしたお互いが支え合う地域が、

犯罪や非行が起こりにくい環境でもあると考えておりますので、町内会組織の強化を図る施策を積極的に進めてまいりたいと存じます。

安心して暮らせる社会の実現は、すべての人の願いです。保護司会の皆様には、学校、関係団体などと連携協力しながら、引き続きその崇高な活動にご精励いただきますようお願い申し上げます。

十月二十一日小雨 岩手山の大きなふところに包まれ盛岡少年刑務所を視察見学。高村光太郎は、若く将来ある青年の再起更生を念じて揮ごうされた「心はいつもあたらしく」言葉では言い尽くせないほどの慈愛を青少年への更生に力を与えている様に共感を覚えました。バスは一路浜民へ…。

不來方の お城の草に 寝ころびて 空に吸はれし 十五の心

啄木記念館では、身も心も啄木に陶酔していた十代に

盛岡少年刑務所前で

ボランティアイガイドさんの説明を聞く

### 視察 研修 晩秋のみちのく 十月二十三日 更生施設・文化遺産・被災地を訪ねる

タイムスリップ。年を重ねても又、新たな思いに心が蘇りました。

二十三日陸前高田「奇跡の一本松」、3・11被災地の大きな爪あとを車窓より見学、現地ボランティアイガイドさんの説明に無言でうなづき、涙を流す事しかできなかった。ゆっくりと時間をかけた心の復興をご祈念いたします。

みやぎの明治村では教育資料館・水沢県庁記念館・登米懐古館を見学。かつて北上川船着場から人の出入りを監視したと言う警察資料館は圧巻であった。心の洗濯が出来た有意義な二日間でした。

〔安部かよ子記〕

### 1 会議・研修会

#### 今年度の活動

- 理事会
  - 4・22 新年度事業計画 総会準備
- 総会 5・21
  - ・伊達泰裕福島保護観察所長・白河市長・西白河町村会長・白河警察署長・白河地区更生保護女性会長・白河地区保護司OB会長の臨席をいただく。
  - ・今年度の事業計画・予算案の決定
- 研修会
  - 5・21 第一期定期研修会
  - 7・12 第二期定期研修会
  - 9・11 第三期定期研修会
  - 11・22 矢吹支部研修会
  - 12・19 第四期定期研修会
  - 12・20 西郷支部研修会
  - 2・25 第五期定期研修会
- 第29回東北地方更生保護大会及び第30回福島県更生保護大会 11・8
- 研修旅行 10・22～10・23
  - ・盛岡少年刑務所・文化遺産・被災地を訪ねる研修(参加者29名)